

平成 26 年度第 2 回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

○ 日程・場所・出席者

(日 程)平成 26 年 10 月 29 日(水)15:00~16:30

(場 所)別館 4 階第 2 委員会室

(出席者)委員 7 名

(事務局)交通局総合企画課

○ 会議の次第・配付資料

(会次第) (1)平成25年度鹿児島市交通事業特別会計決算

(2)平成25年度目標効果額の達成状況

(3)交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成26年度上半期実施状況

(配布資料) 資料1 平成25年度鹿児島市交通事業特別会計決算

資料2 平成25年度目標効果額の達成状況

資料3 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成26年度上半期実施状況

別冊 平成25年度鹿児島市交通事業特別会計決算書

別冊 平成26年度事業概要

(協議の概要)

(1) 平成25年度鹿児島市交通事業特別会計決算

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>費用面では、費用の節約等をずいぶん頑張った結果が表れていると感じるが、実際どうなのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>個々の項目についてはそれぞれ計画との差があるが、総体的には概ね計画の数値目標を満たしているという状況である。</p>

(2) 平成25年度目標効果額の達成状況

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>「かごでん」の案内については、現在は鹿児島中央駅にものぼり旗や案内板が設置されており、以前と比べるとかなり改善されているように思うが、鹿児島中央駅で観光客に対して、どのように「かごでん」に乗ればいいのか分かりやすく案内するために、もう一工夫必要ではないか。</p> <p>また、先日新聞で「かごでん」の利用者数が少ないという記事を見たが、周りの人に聞いてみると、鹿児島市民の方で、「かごでん」が運行していることを知っている、という方が依然として少ないようだ。</p> <p>一番身近な鹿児島市民、県民の方に、まずは「かごでん」を知っていただき、乗っていただくことで、県外から来られた親戚などに口コミで紹介していただくような方法もいいのではないかと。市民の方、県民の方に知っていただくための広報にもっと力を入れて、「かごでん」に一度乗っていただくような努力が必要ではないかと思う。</p>
2	<p>広告収入が減ってきているということだが、広告を載せておけばどんどん収入があるので、増収にはとても有効な手段である。</p> <p>今日も谷山から電車に乗ってきたが、電停に設置している広告板の各所に空きスペースが目立っており、少し見苦しく感じたし、そのままでは広告面の利用状況も分からないので、空きスペースには大きな文字で「広告募集」というような表示をされてみてはどうかと思う。</p> <p>民間の百貨店などに設置している広告板は、空きスペースに「広告募集」という文字が入っており、利用状況が分かりやすい。</p> <p>盤面が錆びたりして見苦しい箇所もあるので、もう少しきれいに整備すれば、周辺の店の方に、「ここに広告を出せば効果があるな」と思っただけのし、利用率を上げるためにも、ぜひ対策をお願いしたい。</p>

委員の主な意見・質疑等	
3	<p>管理の受委託が目標を達成できなかった件について、資料にはその理由として「1人当たりの年間の人件費が当初計画の見込額を大きく上回ったこと等により、計画策定時の見込額を実際の契約額が上回ったため」とあったが、実際にどのような状況になっているのか具体的な中身をお聞きしたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>当初計画策定の段階では、21年度当時の民間バス会社における平均の人件費で、冊子に公表されていた数字等に基づいて委託料を試算した。一方で、実際に管理の受委託の受託者を選定する時には、プロポーザルを行い、金額だけでなく、安全面やサービス面などから総合的に判断して受託者を決定した結果、プロポーザルの評価が一番高かった事業者が、結果的には人件費が一番高い事業者であり、また、計画策定時に見込んでいた委託料は、人件費をかなり低く見積って計算したものであったため、実際の契約額が見込んでいた委託料の額を大きく上回り、目標効果額にどうしても届かなかったという事情があった。</p>
4	<p>販売促進活動の推進のところでなかなか目標を達成できない状況にあるようだが、ビジネスホテル等に一日乗車券の販売委託を行っていることに関して、もっと販売を委託できるホテルを増やせなかったのか、営業活動でもっと何とかできなかったのか、お尋ねしたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>一日乗車券の販売委託に関しては、主要な旅行代理店における販売枚数が当初計画を大きく下回ったことにより、目標を下回る結果となったものである。</p> <p>ホテルでの委託販売については、23年度以降も営業活動を継続しており、24年度には4つのホテル、25年度には1つのホテルを新たに開拓しており、万単位の増収には繋がっているが、主要な旅行代理店での販売枚数が当初計画から大幅に減少したことから、ホテルでの委託販売ではどうしても補いきれない状況となっている。</p>

委員の主な意見・質疑等	
5	<p>私が委員を務めている行政評価委員会の場合でも、観光電車など電車・バス事業について議論になった中で、観光電車のような事業がなかなか市民にも知られていない、あるいは、どこに行けば一日乗車券や交通局のグッズが買えるのか、まだまだ認知されていないという指摘があったので、そのあたりも踏まえて今後の方策を検討していただきたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>観光電車の運行については、採算性を考慮し、27年度に向けて、運行の方法の見直しであるとか、たくさんの方に乗っていただくための方策であるとか、25年度から開始した貸切運行の拡大等、PR方法を含めて局内で検討しているところである。</p> <p>具体的には、観光電車の利用状況は、一日4回の運行の中でも波があり、旅行者の動向についてはこれまでも分析を進めているが、この結果を見極めて運行回数を調整する、その代わりに例えば「かごでん」を午前中だけ観光電車として運行し、午後からは貸切電車として活用することによって、旅行会社としても平日よりも日祝日の方が貸切電車を利用しやすく、また、経費と収入のバランスの面でも、午前午後のどちらかに観光電車の運行を集約した方がよりバランスが良くなると考えている。</p> <p>乗る場所についても鹿児島駅から天文館の間でも乗れるようにするとか、色々な方向から検討し、来年度からは、採算性が少しでも改善されるように、努力していきたい。</p>

(3)交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成26年度上半期実施状況

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>最近では大型の客船が寄港して、上陸された方が市内のあちらこちらを見学して回っているようだ。具体的にどのくらいの時間を陸上で過ごしているのか分からないが、このような方々を、例えば「かごでん」に乗っていただくなど、観光客として取り込める方法を検討してみてもどうか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>「かごでん」の広報啓発は、市や県の観光部局と連携を取って進めているところであり、今の意見を踏まえ、そのような切り口での利用促進が図れないか、訴えていきたいと考えている。</p> <p>ただし、「かごでん」は、運行時間も限られており、非常に厳しい面もある。</p>

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>(事務局回答の続き)</p> <p>また、最近では、チャーター便等でドルフィンポート手前までバスで乗り着けて、そこからシティビュー等に乗り換えるお客様も多いが、大型客船で上陸されたお客様は、3時までには船に戻らないといけない等の時間的な制約があり、慌ただしく観光を済まされるというケースが多いようだ。</p>
2	<p>「適正な人員配置」の中で、バスの嘱託運転士の上限を 40%に設定しているが、人員削減や財政面から嘱託職員は必要だが、この数字は果たして適正な数字と言えるのか。</p> <p>それと、嘱託職員は、交通局で運転士をしていた方から採用するのか、全く新しく一般からの採用を行っているのか、嘱託職員の採用について、労務管理の面から、あるいは運転士本人の意識の問題という面からはどのように考えているのか、または、人事的な観点からどのように考えているのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>嘱託運転士は、一般からの公募で採用しており、また、バス運転士は、一定期間の経験を積んだ上で試験を行い、正規職員への登用という形をとっている。もちろん正規の運転士も、嘱託運転士も、研修等は等しく受けていただくようにしており、どちらにもいい職員がたくさんいる、というのが実態であると考えている。</p> <p>管理の受委託の実施前は、北・桜島営業所の路線も直営で運行していたので、非常に多くの嘱託運転士を抱えており、最大時には、職員全体に対する嘱託職員の割合が 66%くらいまでに達した時代もあったが、経営健全化計画を策定するにあたり、嘱託職員の比率が適正なのか、という議論もあり、当初は北・桜島営業所を含めて 6 割を目途に制限するというところでスタートした。</p> <p>24 年度に管理の受委託が始まり、北・桜島営業所については南国交通に委託したが、その際には転籍といって南国交通に移っていった嘱託運転士の方も大勢いたため、管理の受委託開始後の状況に合わせてもう一度嘱託職員の割合について考え方を整理し、現計画期間内においては 40%というところを目標にやっているといるところである。</p> <p>確かに、40%が妥当かどうか、という議論は難しいところだが、交通事業においては全体の事業費に占める職員給与費の割合がどうしても高くなるため、いかに全体的な経費を抑えていくかという点では、どうしても嘱託運転士の活用ということを考えなければならない、という面もある。</p> <p>また一方で、責任ある運行体制や継続的な高い水準でのサービスの提供等を考えていく上で、この 40%という数字については、今後も引き続き、どの程度に持っていくのかという事を検討していかなければならないと考えている。</p>

委員の主な意見・質疑等	
3	<p>外国人のお客様への対応に関して、先日市電に乗った時に車内を見渡したところ、ローマ字の表記がとても少なく、路線図なんかも日本語の表記だけで、料金表に至っては残念なことに未だに漢数字が使われていた。料金表示は算用数字で統一するとか、せめて路線図だけでも大きくローマ字で表記するなど、外国の方でも分かりやすいような対応をお願いしたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>海外の方に対する車内の表記等を含めた案内について、市電においては、海外の方からこのような質問があるだろう、ということを想定し、お客様に見せて、質問したいことを指差してもらい、その横に質問に対する答えが書いてある表を作成し、各運転士に持たせてある。</p> <p>電車内の表記については、外国の方でもよく分かるような表記の仕方について検討し、工夫してまいりたい。</p> <p>新しい施設に移転するのもいい機会であり、電停の名称等も変わるので、例えば電停を番号で表すなど、表記方法を工夫したい。</p>
4	<p>現在のバス路線図が分かりづらくて、どの路線に乗ればいいのかさっぱり理解できない。</p> <p>皆さんよく利用する路線についてはよく分かっていると思うが、この路線図を見ると、乗ったことのない路線にも乗ってみようというモチベーションが途端に無くなり、そもそもこの路線図は、これを見て確認して下さい、という意図で作られたものではないのでは、という印象すら受ける。</p> <p>例えば、行き先の方面ごとにいくつかの路線に分けて表記するなど、分かりやすい表記にすれば、普段は乗っていない方でも乗ってみようかなという気になるかも知れないので、路線図の見直しについてぜひ検討していただきたい。</p> <p>もしそのような路線図があるとすれば、その路線図はどこで入手できるか。一般市民の方が目の届くような場所に置くことが大事だと思う。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>最新の路線図では、パンフレットの裏面に路線毎の図面を掲載しているので、このパンフレットがなるべく普及していくようにPRにも努めたい。</p> <p>交通局や各乗車券発売所で配布しているほか、イベントの時や、ゴールデンウィーク等の鹿児島中央駅の電停付近では色々なパンフレットを配布する時に、一緒に配布している。</p>

委員の主な意見・質疑等	
5	<p>今日は乗ってきた低床電車には、料金のところに「tram fare 170」と表示していたが、全ての車両について、なるべく早いうちに最新の表示で揃えていただきたい。</p> <p>また、先日二軒茶屋の上りの電停で電車を待っていたところ、下りの電停で下車した中国人と思われる夫婦が、上り側の電停にやってきて路線図を一生懸命見ていたが、どうやら郡元で乗り換えて鹿児島中央駅まで行きたかったのを乗り過ごしてしまったようだったので、郡元まで一緒に乗って行き、乗り換えの案内をしたことがあった。</p> <p>外国人の方でも乗り換えで戸惑うことが無いように、運転士が説明するのではなく、郡元で降りて2系統の電車に乗り換える必要がある、ということが一目見てすぐ分かるような案内を記したものを配ったり、あるいは分かりやすく表示することが必要なのでは、と感じた。</p> <p>特に県外の方にとって、郡元での乗り換えはとても分かりにくいと思うので、案内についてはもう一度検討してみる必要があると思う。</p>
6	<p>留学生とプロジェクトを組んで、どんどん市電・市バスに乗ってもらい、アンケート等でダメなところを指摘してもらえば、問題点がすぐにいっぱい出てくるのではないかな。すぐに取り組めるような気がする。</p>